

ビジネスマナー

授業の目的・概要

本授業では、動物業界への就職を目指す学生が、現場で求められる基本的なビジネスマナーおよび社会人基礎力を体系的に習得することを目的とする。自己紹介や校舎見学を通じて基本的な対人行動や施設利用マナーを学び、研修旅行の事前・事後学習により動物関連施設の理解を深め、就職先としての視点を養う。さらに、名刺交換や電話対応の実践、デジタル履歴書や挨拶文・お礼状の作成など、実務に直結するスキルを段階的に習得する。加えて、職種や業務内容、必要な知識・技術・姿勢についての理解を深めることで自己分析を促し、職業適性の把握とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	社会人経験 8 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

インターンシップに必要な書類の準備が適切に行えるようになる。

デジタル履歴書やお礼状、挨拶文、インターン前の電話などを一人でも充分に行えるようになる。

授業の計画

- 1 回 自主行動型自己紹介
- 2 回 校舎見学(受付の利用方法や券売機の使い方・エレベーターマナー)
- 3 回 研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ(グループワーク)、ルールブック読み合わせ
- 4 回 研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討、学生要覧読み合わせ
- 5 回 研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有、名刺交換説明①
- 6 回 研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題、名刺交換説明②
- 7 回 研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化、名刺交換実践①
- 8 回 名刺交換実践②
- 9 回 デジタル履歴書作成方法①ダウンロード及び購入方法について
- 10 回 デジタル履歴書作成方法②個人情報
- 11 回 デジタル履歴書作成方法③学歴/職歴
- 12 回 デジタル履歴書作成方法④自己紹介書
- 13 回 デジタル履歴書作成方法⑤自己紹介書
- 14 回 挨拶文・お礼状作成①書き方
- 15 回 挨拶文・お礼状作成②実践
- 16 回 挨拶文・お礼状作成③実践

- 17 回 仕事内容理解①—就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）
- 18 回 仕事内容理解②—職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
- 19 回 仕事内容理解③—1 日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 20 回 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 21 回 研修旅行事後学習①—仕事内容の整理
- 22 回 研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ
- 23 回 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える
- 24 回 電話対応①電話機操作方法、話し方、電話例
- 25 回 電話対応②実践 1 回目
- 26 回 電話対応③実践 1 回目
- 27 回 電話対応④実践 1 回目
- 28 回 電話対応⑤実践 2 回目
- 29 回 電話対応⑥実践 2 回目
- 30 回 総復習、振り返り

授業の方法

学校生活や就職、今後のキャリア形成に繋がる講義を行う。

教材

自作プリントを適宜配布する。

評価の方法

期末試験 50%、授業の取り組み意欲 50%を総合的に評価する。

授業外での学習方法

配布しているルールブック、学生要覧、インターンのしおりを見て重要な部分はメモをとる。

インターンシップに参加するまでにデジタル履歴書を仕上げる。

実務経験と授業科目の関係

実際の就活経験や社会人経験を踏まえ、学生のキャリア形成を支える。

コンピューター実習

授業の目的・概要

Microsoft Word: 基本的なビジネス文書の作成から、外部アプリケーションとのデータ連携（差し込み印刷等）に至るまで、実務に即した諸機能を習得する。

Microsoft Excel: 表計算の基礎からデータベース機能を活用した一連の操作を学習し、目的に応じた適切なデータ分析を行うための技術を習得する。

Microsoft PowerPoint: 効果的なプレゼンテーション資料の作成から、スライドショーを用いた説得力のある発表技術まで、一連の機能を習得する。

科	生命科学科	教員	大西 望
コース	S、ES 1、AQR、TEP、W、 D、VN 1	教員の実務経験	講師経験：10 年、PC サポート 13 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期：

- パソコン操作に必要なマウス操作、タッチタイピングの習得
- Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションの作成を行える。
- Microsoft Word を使用して、ビジネス文書の作成が行える。

後期：

- Microsoft Excel を使用して、計算式・関数の計算、グラフの作成を行える。

授業計画

前期

第 0 1 回 :オリエンテーリング授業概要、評価基準、Google 共有ドライブ「2026 年度」の使い方

第 0 2 回 :Windows の概要、フォルダとファイルの管理、マウス操作

第 0 3 回 :PowerPoint（1）PowerPoint の概要、起動、画面構成、表示モード、新規作成、テーマの適用、プレースホルダーを操作する、新しいスライドを挿入する、箇条書き

第 0 4 回 :PowerPoint（2）図形の挿入、SmartArt、練習問題

- 第 0 5 回 :PowerPoint (3) スライドショー実行、画面切り替え、アニメーション、プレゼンテーションの印刷、発表者ツールを使用、練習問題
- 第 0 6 回 :PowerPoint (4) PowerPoint の振り返り
- 第 0 7 回 :Word (1) 作成する文書を確認する、ページレイアウト、文書入力、文字の削除、挿入
- 第 0 8 回 :Word (3) 段落とフォントの調整コピー、移動、文書の保存、文章の書式を設定、文書の印刷、練習問題
- 第 0 9 回 :Word(4)文書作成の振り返り
- 第 1 0 回 :Word (5) ワードアート、画像データの挿入、文字列の折り返し、トリミング、サイズと位置の調整、
- 第 1 1 回 :Word (6) 表現力のある文書を作成しよう②オブジェクト、画像挿入の振り返り
- 第 1 2 回 :Word (7) 表のある文書を作成しよう表の作成、レイアウト、書式設定
- 第 1 3 回 :Word (7) 表のある文書を作成しよう①第 3, 4 章の振り返り、答え合わせ
- 第 1 4 回 :Word (8) 表のある文書を作成しよう②第 3, 4 章の振り返り、答え合わせ
- 第 1 5 回 :Word (9) 期末試験対策
- 第 1 6 回 :確認テスト
- 第 1 7 回 :自主学習 : Word でポスターを作る方法をレポートにまとめる。
- 第 1 8 回 :前期期末試験の返却

後期

- 第 1 9 回 :後期授業概要、評価基準
- 第 2 0 回 :Excel (1) Excel の概要、起動、画面構成、新規作成、データや数式の入力、オートフィル、書式のコピー
- 第 2 1 回 :Excel (2) データや数式の入力の振り返り
- 第 2 2 回 :Excel (4) オート SUM 関数、相対参照と絶対参照、表の書式設定、行列操作、印刷
- 第 2 3 回 :Excel (6) 関数や相対参照と絶対参照の振り返り
- 第 2 4 回 :Excel (7) 円グラフ、縦棒グラフの作成
- 第 2 5 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 2 6 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 2 7 回 :Excel (9) テーブル機能、並び替え、フィルター、条件付き書式
- 第 2 8 回 :Excel (10) データベース機能の振り返り

2026 年度

第 29 回 :Word の差し込み印刷

第 30 回 : 外部アプリからのデータを貼り付け

第 31 回 :Excel (11) 期末試験対策①データ入力、関数、グラフの振り返り

第 32 回 :Excel (12) 期末試験対策②データベース機能の振り返り

第 33 回 :確認テスト

第 34 回 :自宅学習②各種類のグラフの用途をレポートにまとめる

第 35 回 :確認テスト返却

授業の方法

コンピューターによる演習

教材

『よくわかる Word2024 & Excel2024 & PowerPoint2024 Office2024/Microsoft365 対応』

(株式会社富士通ラーニングメディア、2025 年 4 月 13 日、ISBN978-4-86775-152-7)

評価の方法

平常点、試験点をそれぞれ 100 点満点で成績を集計し、評価する。

- 平常点：Google 共有ドライブ「2026 年度」内に指定のファイルがあることことこと
- 試験点：前期・後期期末試験で集計した成績

授業外での学習方法

授業範囲の操作内容を確認し、Word・Excel・PowerPoint の基本機能や用語を事前に理解しておくとともに、授業で学んだ操作を復習し、課題や練習問題を通して基本操作を繰り返し実践する。

実務経験と授業科目の関係

官公庁や教育機関での豊富な指導経験を基に、単なる機能紹介に留まらず、業務のスピードアップに直結する Microsoft アプリの効率的な活用法を伝授します。

事務処理や資料作成の現場で培った「ミスなく早く仕上げる」ための実戦ノウハウを共有し、実社会で通用する即戦力の育成を目指します。

陸上・プール実習

授業の目的・概要

本授業では、陸上競技およびプール実習を通して、基礎体力の向上と運動技能の習得を目的とする。バスケットボール、バドミントン、バレーボール、ドッジボールなどの球技では、基本技術やルールを学び、協調性やコミュニケーション能力を養う。また、外周走や筋力トレーニングを通して、継続的に身体を動かす習慣と体力向上を図る。後期のプール実習では、クロールや平泳ぎ、立ち泳ぎ、潜水などを段階的に学び、安全管理意識や水中活動に必要な技術を身につける。各種実技を通して、健康維持への理解を深め、主体的に行動できる力を育成する。

科	生命科学科	教員	神垣・荒田・前田拓
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	ダンスインストラクター15年 鯨類水中ショートトレーナー3年 スポーツ用品店販売員9年
対象年次	1年	年間単位数	2単位

目標

1、ルール、マナー、協調性の理解と育成

→競技ごとのルールや、安全に活動するためのマナー、仲間と協力する力やコミュニケーション力を養う。

2、健康意識の向上

→運動の大切さを理解し、日常生活でも健康を意識する習慣を身につける。

3、記録への挑戦

→目標を立てて記録向上を目指すことで、達成感や努力する姿勢を身につける。

授業計画

第1週 授業説明(実施場所、用具取り扱い、注意点)・バスケット (パス・シュート基礎)

第2週 バスケット (レイアップ・フリースロー基礎)

第3週 バスケット (ドリブル・5対5練習試合)

第4週 バドミントン (素振り・リフティング基礎)

第5週 バドミントン (下半身を鍛えるフットワーク基礎)

2026 年度

- 第 6 週 バトミントン（2 対 2 練習試合）
第 7 週 バレーボール（パス・レシーブ基礎）
第 8 週 バレーボール（サーブ・スパイク基礎）
第 9 週 バレーボール（6 対 6 練習試合）
第 10 週 ドッチボール（投げ合い練習基礎）
第 11 週 スポーツ大会練習期間 各競技（バスケット・バトミントン・バレー・ドッチボール等）
第 12 週 スポーツ大会練習期間 各競技（バスケット・バトミントン・バレー・ドッチボール等）
第 13 週 外周・筋力トレーニング（学校の外周・腕立て・腹筋基礎）①
第 14 週 外周・筋力トレーニング学校の外周・腕立て・腹筋基礎）②
第 15 週 前期試験テスト練習（シャトルラン）①
第 16 週 前期試験期間（シャトルラン）②
第 17 週 前期試験採点期間 前期のまとめ（各スポーツ練習試合）①
第 18 週 前期試験返却期間 （各スポーツ練習試合）②/プール実習オリエンテーション

後期

- 第 19 週 ドッチボール（攻撃・守備・セーフ・アウト基礎）①
第 20 週 ドッチボール（攻撃・守備・セーフ・アウト基礎）②
第 21 週 ドッチボール（チーム分け対抗試合）
第 22 週 プール実習①ー実力テスト
第 23 週 プール実習②ークロール 25m
第 24 週 プール実習③ークロール 50m
第 25 週 プール実習④ー平泳ぎ 25m
第 26 週 プール実習⑤ー平泳ぎ 50m
第 27 週 プール実習⑥ークロール 100m
第 28 週 プール実習⑦ー立ち泳ぎ
第 29 週 各競技試合（バスケット・バトミントン・バレー・ドッチボール等）
第 30 週 プール実習⑧ー潜水 15m
第 31 週 プール実習⑨ー潜水 25m
第 32 週 プール実習試験対策
第 33 週 後期試験
第 34 週 後期のまとめ・調べ学習
第 35 週 試験返却・試験の振り返り

授業の方法

実技・プール

教材

なし

評価の方法

2026 年度

期末試験 40%、平常点 40%、出席 20%

平常点は、授業態度と問題演習への取り組みを総合的に評価する。

授業外での学習方法

各自、授業外でのストレッチや補強トレーニング

実務経験と授業科目の関係

主にルール、マナー、協調性への理解は社会に出ていく中で、必要不可欠なものになるので、自身の実体験を含めながら説明していく。

人間形成概論

授業の目的・概要

本授業では、人間関係やコミュニケーションに関する心理学的知識を学び、社会人として必要な対人理解力と自己理解力を身につけることを目的とする。パーソナリティや対人認知、感情、ストレス、動機付けなどについて学習し、自分自身や他者への理解を深める。また、ディスカッションやグループワーク、アサーショントレーニング、カウンセリング演習を通して、円滑なコミュニケーション能力や対人スキルを養う。さらに、リーダーシップやコーチング、集団行動について理解を深め、職場や社会において協調性を持ちながら主体的に行動できる人材育成を目指す。

科	生 命 科 学 科	教員	長岡 真美 森田 陵介
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	なし
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

多種多様な価値観を持つ他者の存在を認め、円滑な対人関係を築くための基本的な視点を養うとともに、グループワークや用語を知り、自身がどのような環境や経験を経て、現在の価値観を形成してきたかを分析する。

授業計画

- 1 回 講師の自己紹介,生徒同士の自己紹介
- 2 回 ディスカッションのやり方・PREP 法について
- 3 回 パーソナリティについて
- 4 回 対人認知 ステレオタイプ(1) -対人認知について
- 5 回 対人認知 ステレオタイプ(2) -原因帰属、対人魅力について
- 6 回 人間関係とコミュニケーション(1) -人間関係、コミュニケーションについて
- 7 回 人間関係とコミュニケーション(2) -言語的 or 非言語的コミュニケーションをグループで学ぶ
- 8 回 インターネット依存症について
- 9 回 感情について

2026 年度

- 10 回 ストレスについて(1) -ストレスとは
- 11 回 ストレスについて(2) -ストレスへの対処法とは
- 12 回 人生曲線を書き、過去と未来の自分を見つめてみる
- 13 回 アサーショントレーニングについて
- 14 回 前期まとめ(1) -前期授業のまとめ
- 15 回 前期まとめ(2) -前期内容についてのまとめ問題を実施
- 16 回 援助行動、要請に関する社会的スキル
- 17 回 交流分析とマインドフルネス(1) -コミュニケーションを理解する観察法
- 18 回 交流分析とマインドフルネス(2) -交流パターンの分析について
- 19 回 カウンセリング、悩み相談について(1) -カウンセリングと悩み相談について
- 20 回 カウンセリング、悩み相談について(1) -グループワークで実際に悩み相談を行って学ぶ
- 21 回 動機付け(1) -欲求、動機付けについて
- 22 回 動機付け(2) -情動、自己効力感について
- 23 回 集団について(1) -集団規範とは
- 24 回 集団について(2) -他者から与えられる影響について
- 25 回 コーチングについて
- 26 回 リーダーシップ(1) -リーダーシップの歴史について
- 27 回 リーダーシップ(2) -仕事での集団の形について
- 28 回 人間関係を難しくする障害
- 29 回 後期まとめ(1) -後期授業のまとめ
- 30 回 後期まとめ(2) -後期内容についてのまとめ問題を実施

授業の方法

講義、問題についてのレポートや討論、グループワーク

教材

山蔦圭輔 本田周二『メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論』（南山堂、2021 年）

ISBN 978-4-525-50451-9

2026 年度

評価の方法

試験 80%、授業への参画 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

身の回りの事象が、授業内容とどのように関係しているのかを意識することと、

試験へ向けて、授業で出てきた用語をまとめる。

実務経験と授業科目の関係

授業で出てくる用語は、社会で生きていく上での人間関係構築に関することが多くある。

教員の実体験を含めながら説明していく。

インターンシップ I

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを経験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	林
コース	全コース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・ 動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・ 動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・ 職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・ インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第 2 回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第 3 回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション
- 第 4 回 インターンシップ② 施設見学と業務内容の把握
- 第 5 回 インターンシップ③ 接客・来客対応の補助
- 第 6 回 インターンシップ④ 電話対応・受付業務の補助
- 第 7 回 インターンシップ⑤ 施設内清掃・衛生管理業務
- 第 8 回 インターンシップ⑥ 飼育環境の整備と安全確認
- 第 9 回 インターンシップ⑦ 動物の健康観察と記録
- 第 10 回 インターンシップ⑧ 給餌・給水業務の補助
- 第 11 回 インターンシップ⑨ 動物の保定補助
- 第 12 回 インターンシップ⑩ 日常ケア業務の補助
- 第 13 回 インターンシップ⑪ 施設備品・消耗品管理
- 第 14 回 インターンシップ⑫ 顧客対応・コミュニケーション実践
- 第 15 回 インターンシップ⑬ チーム業務への参加

2026 年度

第 16 回	インターンシップ ^⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ ^⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ ^⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ ^⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ ^⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ ^⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ ^⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ ^㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ ^㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ ^㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ ^㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ ^㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ ^㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ ^㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ ^㉘	担当業務の実践⑮
第 31 回	インターンシップ ^㉙	担当業務の実践⑯
第 32 回	インターンシップ ^㉚	担当業務の実践⑰
第 33 回	インターンシップ ^㉛	担当業務の実践⑱
第 34 回	インターンシップ ^㉜	総合実践・就業力向上
第 35 回	インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理	

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼養管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動Ⅰ

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	林
コース	全コース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）
- 第 18 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）
- 第 19 回 KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 20 回 KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 21 回 KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成）

2026 年度

- 第 22 回 KAP エキスポへの参加
- 第 23 回 KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 24 回 KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 25 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 26 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 27 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 28 回 卒業研究発表会への参加
- 第 29 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 30 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。
事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

基礎生物学

授業の目的・概要

生物学の基礎を学び、将来的に関わる動植物について理解するための基本を学ぶ。

細胞、組織、臓器といった生体の構成成分を理解し、また遺伝情報、免疫の働き、人の身体の調節等を理解する。

科	生命科学科	教員	鈴木 春雄
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1

目標

前期…生体を構成する細胞をはじめ、組織、遺伝子、主な臓器について学習する。

後期…生体防御、体内環境、神経系や内分泌系等の構造や働きについて学習する。

授業計画

- 第 1 回 生物の多様性と共通性
- 第 2 回 細胞（１）（特徴、大きさ、真核・原核細胞）
- 第 3 回 細胞（２）（細胞構造とその働き）
- 第 4 回 代謝とエネルギー・ATP
- 第 5 回 酵素の働き
- 第 6 回 遺伝子情報と DNA
- 第 7 回 体細胞分裂
- 第 8 回 遺伝情報の発現（１）（転写、翻訳）
- 第 9 回 遺伝情報の発現（１）（タンパク質とその合成）
- 第 10 回 減数分裂
- 第 11 回 体内環境と恒常性
- 第 12 回 循環器系（心臓）
- 第 13 回 肝臓の働き、腎臓の働き

2026 年度

第 14 回 腎臓の働き、消化器系の働き

第 15 回 まとめ

第 16 回 前期期末試験

第 17 回 採点期間（自主学習：色々な発酵について）

第 18 回 前期期末試験返却、答え合わせの

第 19 回 生体防御（１）（免疫とは）

第 20 回 生体防御（２）（適応免疫の仕組み）

第 21 回 生体防御（３）（免疫異常と病気、予防接種）

第 22 回 ヒトの神経系

第 23 回 自律神経（交感神経、副交感神経）

第 24 回 内分泌系（１）（ホルモンとその働き）

第 25 回 内分泌系（２）（内分泌腺について）

第 26 回 体内環境（１）（糖尿病と血糖値）

第 27 回 体内環境（２）（体温、体液）

第 28 回 生物の分類

第 29 回 生物の多様性（原核生物界、原生生物界等）

第 30 回 まとめ

第 31 回 後期期末試験

第 32 回 採点期間（自主学習：眼の構造と名称、明暗調節について）

第 33 回 後期期末試験返却、答え合わせ

第 34 回 生物の多様性と生態系（１）（植生、階層構造、バイオーム）

第 35 回 生物の多様性と生態系（２）（生態系、生態系の成り立ち、食物連鎖）

授業の方法

教材と板書

教材

浜島書店『生物図表』

2026 年度

評価の方法

期末試験 80 %、 平常点 20 % (出席率、授業態度)

授業外での学習方法

特になし

実務経験と授業科目の関係

-

動物関連法規学 I

授業の目的・概要

狂犬病予防法、動物愛護法を中心に家庭で飼育または動物に関わる仕事に就く上で知っておくべき各種動物に関する法律について学ぶ。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

法律の仕組み、狂犬病予防法など動物に関わる以上は必須となる制度について理解できるようになる。

後期

動物愛護法を中心にペットビジネスや動物を飼育する際に知っておくべき事柄や制度について理解できるようになる。

授業計画

- 1 回 授業概要紹介、自己紹介など
- 2 回 犬猫飼養頭数、動物に関する社会の現状など
- 3 回 狂犬病予防法（1）狂犬病とは その 1
- 4 回 狂犬病予防法（2）狂犬病とは その 2
- 5 回 狂犬病予防法（3）狂犬病清浄国・地域について
- 6 回 狂犬病予防法（4）狂犬病予防法の概要 その 1 法の概要、目的
- 7 回 狂犬病予防法（5）狂犬病予防法の概要 その 2 対象動物、輸入禁止動物（感染症法）
- 8 回 狂犬病予防法（6）狂犬病予防法の概要 その 3 畜犬登録、狂犬病予防注射制度
- 9 回 狂犬病予防法（7）狂犬病予防法の概要 その 4 罰則など
- 10 回 動物が亡くなった場合（1）動物や動物の死体の法的立場
- 11 回 動物が亡くなった場合（2）廃棄物処理法と化製場法と動物
- 12 回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その 1
- 13 回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その 2
- 14 回 動物愛護法（1）法律の成立背景その 1

- 15 回 動物愛護法（2）法律の成立背景その 2
- 16 回 動物愛護法（3）目的
- 17 回 動物愛護法（4）基本原則
- 18 回 動物愛護法（5）動物の飼い主の責任 その 1
- 19 回 動物愛護法（6）動物の飼い主の責任 その 2
- 20 回 動物愛護法（7）動物虐待に対する罰則 その 1
- 21 回 動物愛護法（8）動物虐待に対する罰則 その 2
- 22 回 動物愛護法（9）動物取扱業の規制 その 1
- 23 回 動物愛護法（10）動物取扱業の規制 その 2
- 24 回 動物愛護法（11）動物取扱業の規制 その 3
- 25 回 動物愛護法（12）動物取扱業の規制 その 4
- 36 回 動物愛護法（13）第 2 種動物取扱業、実験動物と産業動物、
- 27 回 動物愛護法（14）特定動物 その 1
- 28 回 動物愛護法（15）特定動物 その 2
- 29 回 動物愛護法（16）マイクロチップの装着
- 30 回 動物愛護法（17）自治体の役割

授業の方法

講義

教材

テキスト、自作のプリント

評価の方法

試験 80%、平常点 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

1 回 1 回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係

動物分野を専門とする行政書士として長らくペットや野生動物分野の許認可を含む法律事務業務を行っており、ペットビジネスのサポートを行っている。それらの経験を下地に、主にペットに関する法律を詳しく解説していく。

海洋生物学

授業の目的・概要

海洋・河川・汽水域に生息する生物の分類・形態を学び、解剖と観察を通して理解を深める。和歌山の海・住吉川の自然の観察を行い、生物の採集と観察の実体験から理解を深める。これらの学習を通して得た知識は、小学校の体験学習をサポートする形で解説を行う実習を行う、水族館・アクアショップのスタッフは、動物を扱いますが解説を行いゲストに対する対応が仕事です。そのための実践を通して学ぶ授業です。

科	生命科学科	教員	白井芳弘
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	3 単位

目標

1 学期

魚類の観察と解剖を通して、体の作りと機能を理解し、この知識を飼育に応用できる。

海岸の環境を学んだ後に実際に海岸生物の観察を行い、生物の生息状況を理解できる。

生物の分類階級と所属する生物について学び、分類群ごとの特徴を理解

刺胞動物の特徴を学習し、イソギンチャクの顕微鏡観察を行い顕微鏡写真を撮影できる。

2 学期

住吉川の自然観察の知識を用いて、地域の小学校の自然観察のサポートを行い、水族館の教育活動を実践。

軟体動物・棘皮動物の特徴と解剖を通して体のつくりを学び、解説・飼育技術に応用できる。

授業計画

- 1 回 年間の授業の進め方、海洋実習のために岩礁海岸の環境と生物
- 2 回 海洋実習：岩礁海岸の生物観察
- 3 回 実習ふりかえり（観察した生物写真を配布、そこに名称を入れることができる）
- 4 回 魚類の体の名称を学び説明することができる
- 5 回 魚類の内部構造、呼吸器官・消化器官の名称を説明することができる。
- 6 回 魚類の観察と解剖
- 7 回 魚類の観察と解剖

- 8回 解剖ふりかえり（解剖写真に名称を入れることができる）
- 9回 生物の分類（界・門・綱 の名称と属する生物を説明できる）
- 10回 海綿動物門の特徴（海綿動物の食物である浮遊有機物を理解できる）
- 11回 刺胞動物門の特徴（イソギンチャクの体のつくりを理解でき説明できる）
- 12回 実験：イソギンチャクの刺胞と共生藻の観察（顕微鏡観察と写真撮影ができる）
- 13回 実験の振り返り（顕微鏡写真を説明することができる）
- 14回 課題対応：イソギンチャクの刺胞と共生藻の観察内容をまとめる
- 15回 前期試験の範囲の説明を理解し学習に役立てることができる。
- 16回 前期試験
- 17回 前期試験のふりかえり答え合わせを行い理解を深める
- 18回 河口の自然環境と生物、
- 19回 住吉川河口での生物採集と観察を行う（次週の小学校観察会サポートのための現地確認）
- 20回 神戸市立御影小学校 3 年生の川の生き物観察のサポート（水族館の自然観察会の体験）
- 21回 軟体動物門の特徴と綱の名称と属する生物を説明することができる
- 22回 軟体動物門二枚貝綱の特徴と体のつくりと名称を説明できる
- 23回 軟体動物門頭足綱の特徴と体のつくりと名称を説明できる
- 24回 実習：イカの観察と解剖
- 25回 実習：イカの観察と解剖
- 26回 イカの解剖ふりかえり・棘皮動物門の特徴
- 27回 ウニ綱の特徴と体の名称を説明できる。
- 28回 ヒトデ綱の特徴と体の名称を説明できる。
- 29回 後期試験範囲の説明
- 30回 後期試験
- 31回 試験の回答と振り返り
- 32回 ナマコ綱の特徴と体の名称
- 33回 マナマコの解剖を行い内部構造と骨片を顕微鏡で観察する。
- 34回 マナマコの解剖写真を用い振り返り
- 35回 ナマコの生態と水槽飼育の方法

授業の方法

講義（対面授業・遠隔授業）・実習（生物の解剖・顕微鏡観察）・校外実習（海岸と河口にて観察・教育活動）

教材

飼育ハンドブック No.3 ・採集生物と生物解剖の写真を配布

2026 年度

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

実習前に目的方法を再確認、実習後に結果をノートにまとめる。スマホで撮影した写真に名前を入れる。

実務経験と授業科目の関係

水族館における生物飼育のための基礎知識、教育活動の体験、生物の観察の方法を習得をすることができる。

水槽管理概論実習Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、水槽管理に必要な基礎知識と実践的な技術を学び、アクアリウム・水族館業界で求められる飼育管理能力を身につけることを目的とする。淡水・海水それぞれの水質管理やろ過、機材メンテナンス、生体の健康管理などを体系的に学習し、安全で適切な飼育環境を維持する力を養う。また、水草やサンゴの育成、レイアウト技術、コケ対策などを通して、観賞性と管理技術の両面を理解する。さらに、生体発表や調べ学習を通じて探究心や発信力を高め、現場で主体的に行動できる実践的な人材育成を目指す。

科	生命科学科	教員	潮見玲和
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	アクアリウムショップ勤務歴 8 年
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

- ・ 基本的な水槽管理業務(水替え、水槽周り美化、水質検査、機材メンテナンス)等が行えるようになる
- ・ 生体の健康管理(給餌、状態チェック、状態異常への適切な対処)等を行えるようになる
- ・ 水槽の立ち上げ作業からリセット作業までを行うことができるようになる
- ・ 水槽管理業務に必要なコミュニケーション能力を身につける

授業計画

[前期]

第 1 週 前期授業について、水槽管理に対しての心得

第 2 週 水槽管理において必要なもの一式解説(淡水海水共に)

第 3 週 水換えについて(RO 水や浄水器説明、人工海水作成含む)、パッキングについて

第 4 週 水槽の掃除、美化について

第 5 週 機材メンテナンスについて

2026 年度

第 6 週 病気についてと魚の健康チェックについて(魚の導入含む)

第 7 週 魚の健康管理について

第 8 週 餌について

第 9 週 バクテリアについて

第 10 週 水質について①-主に淡水(水質検査含む)

第 11 週 水質について②-主に海水(水質検査含む)

第 12 週 ろ過について

第 13 週 水槽の立ち上げについて

第 14 週 様々な飼育スタイルについて

第 15 週 前期内容の振り返り

第 16 週 前期試験

第 17 週 前期のまとめ・調べ学習

第 18 週 試験返却・試験の振り返り

[後期]

第 19 週 後期の授業について、夏休み期間の振り返り

第 20 週 好きな魚、水生生物を発表(1 人 1 種または 1 系統)

第 21 週 レイアウトについて-淡水編

第 22 週 レイアウトについて-海水編

第 23 週 コケの種類と原因、対策について

第 24 週 水草育成について①-種類、育成環境

第 25 週 水草育成について②-維持管理

第 26 週 サンゴ育成について①-種類、育成環境

第 27 週 サンゴ育成について②-維持管理

第 28 週 水槽管理における淡水と海水の違い

第 29 週 水槽のリセットについて(半リセット含む)

第 30 週 後期内容の振り返り

第 31 週 後期試験

第 32 週 後期のまとめ・調べ学習

第 33 週 試験返却・試験の振り返り

2026 年度

第 34 週 好きな魚、水生生物について発表(前半組)

第 35 週 好きな魚、水生生物について発表(後半組)

授業の方法

各必要知識に対する座学講義と、地下実習室の水槽を用いた実技実習を行う。

教材

適宜必要な資料の配布を行う。

また地下実習室の水槽を教材とし日々の授業に活用する。

評価の方法

試験 40%、授業への参画 20%、課題への取り組み 40%で総合的に判断する。

授業外での学習方法

授業内容をノートにまとめる。

ノートには授業内容での疑問や質問を授業毎に 1 つ以上書くことをルールとする。

用品について調べ物学習を行う。

地下の実習水槽の管理。

実務経験と授業科目の関係

移動水族館業務やアクアリウムショップ勤務等、業界で約 8 年勤務した経験から、現場で必要とされる最新の知識技術を伝える講義を行う。

マリン実習

授業の目的・概要

本授業では、水槽管理や施設運営を通して、水族館・アクアリウム業界で必要となる実践的な知識と技術を身につけることを目的とする。地下水槽の管理やメンテナンス、飼育管理、設備点検などをグループで行い、協調性や責任感、現場対応力を養う。また、研修旅行やインターンシップ事前学習を通して、業界理解や職業意識を深める。さらに、施設改善や KAP エキスポ成果発表に向けた企画・運営を経験することで、企画力や発信力を高め、将来現場で即戦力として活躍できる人材育成を目指す。

科	生命科学科	教員	姉崎拓都
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期 チームワーク力を身につけ、校外学習に向けた団体行動など協調性を身につける。インターン実習など課外活動にむけてルールを学ぶ

後期 自主性のある行動を行なえるようになる。学内以外の実習や就職活動時に自分で考え、自分で行動する。水槽のメンテナンス及びトラブル処理が出来るようになる。就職活動への意識を持ち、将来の進路を決定する。

授業計画

- 第 1 回 アイスブレイク、(年間イベントについての確認)
- 第 2 回 地下の水槽管理グループの編成について① 地下の水槽への配属
- 第 3 回 地下の水槽管理グループの編成について② それぞれの水槽管理の引継ぎ
- 第 4 回 研修旅行での動きやマナーについて
- 第 5 回 研修旅行前学習①
- 第 6 回 研修旅行前学習②
- 第 7 回 インターンシップ実習の手続き① 概要
- 第 8 回 インターンシップ実習の手続き② 履歴書の書き方
- 第 9 回 地下の施設改善/グループワーク①

2026 年度

第 10 回	地下の施設改善/グループワーク②	
第 11 回	水槽管理の見直し/掃除、換水	
第 12 回	水槽管理の見直し/餌やり、マニュアル	
第 13 回	水族館のテーマ別比較	
第 14 回	水族館のレイアウトについて	
第 15 回	夏休み前の生体管理の説明	
第 16 回	前期試験	
第 17 回	前期授業のまとめ	
第 18 回	前期試験返却	
第 19 回	水槽メンテナンス	夏休み後の改善点
第 20 回	水槽メンテナンス	施設の備品の確認
第 21 回	後期研修旅行前学習	
第 22 回	後期研修旅行前学習	
第 23 回	水槽メンテナンス	水槽設備の状態確認
第 24 回	水槽メンテナンス	飼育管理について見直し
第 25 回	水槽メンテナンス	地下管理役割の分担①
第 26 回	水槽メンテナンス	地下管理役割のフィードバック
第 27 回	水槽メンテナンス	KAP エキスポ成果発表に向けての企画作成
第 28 回	水槽メンテナンス	KAP エキスポ成果発表に向けての企画作成
第 29 回	水槽メンテナンス	KAP エキスポ成果発表に向けて準備、改装
第 30 回	水槽メンテナンス	KAP エキスポ成果発表に向けて準備、改装
第 31 回	後期期末テスト	
第 32 回	後期まとめ授業	
第 33 回	後期期末テスト返却	
第 34 回	水槽メンテナンス	KAP エキスポ成果発表に向けて
第 35 回	水槽メンテナンス	KAP エキスポ成果発表フィードバック

授業の方法

板書を用いた講義・水槽機材、生体を用いた実習

教材

水槽機材、生体

評価の方法

期末試験 80%（筆記試験 or レポート試験）授業態度 10%、課題 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

自身の水槽管理において全授業内容を踏まえた観察・飼育を行い、日々の飼育日誌を作成する。

実務経験と授業科目の関係

-

潜水士

授業の目的・概要

国家資格である潜水士は、水中で作業する水族館職員、イルカのトレーナー、ダイビングインストラクター、潜水士、自然の状態を調べる調査会社などでは必須の資格であります。近年では水族館に提出するエントリーシートや履歴書に本資格が記載されていないと受験をすることが出来ません。

科	生命科学科	教員	佐崎 順
コース	アクアスペシャリスト	教員の実務経験	専門学校教員 33 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

* 潜水士の資格取得を目指し、1 年次終了までに本資格の取得を目指そう。

授業計画

- 1 回 潜水の範囲と圧力（水圧、絶対圧力、ゲージ圧力）を理解する①
- 2 回 潜水の範囲と圧力（水圧、絶対圧力、ゲージ圧力）を理解する②
- 3 回 ボイルの法則を理解し、計算することができる。
- 4 回 シャルルの法則、ダルトンの法則を理解し、計算することができる。
- 5 回 アルキメデスの法則を理解し、計算することができる
- 6 回 パスカルの法則、水中での物の見え方を理解する
- 7 回 水中で利用するボンベに充填されている気体（酸素、窒素、二酸化炭素、一酸化炭素、ヘリウムなど）の性質を理解①
- 8 回 水中で利用するボンベに充填されている気体（酸素、窒素、二酸化炭素、一酸化炭素、ヘリウムなど）の性質を理解②
- 9 回 潜水器（硬式潜水、軟式潜水）、潜水方法（トライミクス潜水、ナイトロックス潜水、バウンス潜水、飽和潜水）などの特徴を理解する
- 10 回 潜水方法（スクーバ潜水、全面マスク式潜水、ヘルメット式潜水、混合ガス潜水）などの特徴、を理解する①
- 11 回 潜水方法（スクーバ潜水、全面マスク式潜水、ヘルメット式潜水、混合ガス潜水）などの特徴、を理解する②
- 12 回 事業者が安全に潜水士に作業させるためにどのようなことをするのかを理解する
- 13 回 送気系統とは①（逆止弁、調節空気槽、予備空気槽、流量計など）
- 14 回 送気系統とは②（逆止弁、調節空気槽、予備空気槽、流量計など）
- 15 回 予備空気槽の計算①
- 16 回 前期試験
- 17 回 前期試験採点期間

2026 年度

- 18 回 前期試験の振り返り
- 19 回 予備空気槽の計算②
- 20 回 潜水器の特徴、定期点検の頻度を理解し覚える。
- 21 回 高気圧障害の循環器
- 22 回 高気圧障害の呼吸器
- 23 回 高気圧障害の神経系
- 24 回 水圧が関係する高気圧障害（減圧症、窒素酔い）
- 25 回 水圧が関係する高気圧障害（副鼻腔障害、酸素中毒、二酸化炭素中毒）
- 26 回 水圧が関係する高気圧障害（一酸化炭素中毒、骨壊死など）
- 27 回 心肺蘇生法①
- 28 回 心肺蘇生法②
- 29 回 潜水に関する関係法令①
- 30 回 潜水に関する関係法令②
- 31 回 後期試験
- 32 回 後期試験採点期間
- 33 回 後期試験の振り返り
- 34 回 過去問を解く①
- 35 回 過去問を解く②

授業の方法

- * 本講義では、具体的な例を挙げて説明する
- * 授業内で過去問を多く解く

教材

- * コンデックス情報研究所編著『潜水士要点まとめ＋よく出る問題』（2023 年、成美堂出版）
- * 授業で解く過去問は、必要に応じて授業内で適宜配布する。

評価の方法

- * 試験 50%、授業への参画 20%、課題への取り組み 30%で総合的に評価する。
- * 前・後期一回ずつ抜き打ちでノートチェックを行う。講義内容だけでなく、事後学習の内容も確認する

授業外での学習方法

- * 事後授業として、授業内で疑問に思ったことを抽出し、自身で調べその結果をノートに書き出そう
- * 授業内で習った内容をまとめたフレーズ集を覚える
- * 過去問を多く解く

実務経験と授業科目の関係

* 潜水土資格保有

* 海洋生物（魚類、サンゴなど）の調査・研究の経験あり

* 環境省 みどりの国勢調査 静岡県 調査責任者（1995 年度）

アクアリウム用品学

授業の目的・概要

本授業では、アクアリウムや水族館において使用される各種用品・機材について基礎知識を学び、生体に適した飼育環境を構築・維持するための理解を深めることを目的とする。水槽やろ過設備、温度管理機器、水質検査器具、照明、エアレーションなどの特徴や役割を体系的に学習し、用途に応じた適切な器具選定能力を養う。また、餌や掃除道具、レイアウト用品についても理解を深め、観賞性と生体管理の両立を考えた運用方法を学ぶ。さらに、水族館で使用する大型設備や機材についても触れ、現場で活用できる実践的な知識と判断力を身につける。

科	生命科学科	教員	藤原 瑛
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

水槽管理で使用する器具の中で、最も重要といえるろ過設備やヒーターなどの基本的な器具のしくみを、ろ過システムを中心に学習し、担当水槽において適切に使用できるようにする。

後期

その他の飼料や掃除管理の際に使う器具などの特徴を理解し、適切に水槽管理を行うことができるようにする。また、水槽を作成する際にどのような器具を用いれば良いかを適切に判断できるようにする。

授業計画

- 1 回 オリエンテーション アクアリウム用品とはなにを指すのか
- 2 回 水槽と水槽台の特徴について①
- 3 回 水槽と水槽台の特徴について②
- 4 回 ろ過設備について①（上部フィルター・外掛けフィルター）
- 5 回 ろ過設備について②（外部フィルター）
- 6 回 ろ過機材について③（底面フィルター・投げ込み式フィルター・流動式フィルター）
- 7 回 水族館のろ過設備について
- 8 回 ろ過機材について④（オーバーフロー式・ろ材の種類）
- 9 回 ろ過機材について⑤（プロテインスキマー）・フィルターのまとめ
- 10 回 温度調整設備について①（温度固定ヒーター・ヒーター）

- 11 回 温度調整設備について②（サーモスタット付きヒーター）
- 12 回 温度調整設備について③（水槽用クーラー・その他ヒーター）
- 13 回 水質検査器と水について①
- 14 回 水質検査器と水について②・前期最終課題説明
- 15 回 試験範囲説明、前期の振り返り
- 16 回 アクアリウムの掃除用具について
- 17 回 証明器具について
- 18 回 餌について①（活餌）
- 19 回 餌について②（EP 飼料・配合飼料）
- 20 回 餌について③（冷凍餌・その他）
- 21 回 水槽の掃除道具について
- 22 回 エアレーションについて
- 23 回 レイアウト品、底砂について①
- 24 回 照明について
- 25 回 その他の器具について
- 26 回 水族館で利用する器具について、今までの振り返り
- 27 回 生物に合わせた器具の選び方①
- 28 回 生物に合わせた器具の選び方②
- 29 回 発表・最終課題
- 30 回 試験範囲説明・最終課題

授業の方法

講義・実演

教材

授業中に必要に応じてプリント資料を配布する。

評価の方法

試験 60%、課題 20%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内容をノート等にまとめる。

各回にて紹介した器具について、どこかのメーカーでどのような商品が作られているかを調べることを各回の課題として、最終課題の提出の際に併せて提出する。

2026 年度

実務経験と授業科目の関係
-

アニマルアクティビティ

授業の目的・概要

本授業では、動物との適切な関わり方やアニマルアクティビティの実践方法を学び、動物と人との良好な関係構築に必要な基礎的能力を養うことを目的とする。犬・猫・小動物などの行動特性やストレスサインを理解し、安全かつ動物福祉に配慮した接し方を身に付ける。また、動物介在活動の基礎やレクリエーション活動の企画・運営方法について学び、対象者や目的に応じたプログラムを考案できる力を育成する。さらに、高齢者施設や教育現場など多様な場面を想定した活動設計を通して、コミュニケーション能力とチームワークを高め、動物を介した社会貢献活動に必要な実践力を修得する。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	1 単位

目標

- ・ 犬・猫・小動物の行動特性およびストレスサインを理解し説明できる。
- ・ 動物福祉に配慮した安全なアニマルアクティビティの方法を身に付ける。
- ・ 対象や目的に応じた動物介在活動のプログラムを企画・立案できる。
- ・ 動物を介した活動において必要なコミュニケーション能力と協働力を身に付ける。

授業計画

第 1 回	前 期 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン
第 2 回	動 物 と の 関 わ り 方 と 安 全 管 理 の 基 礎
第 3 回	動 物 の 行 動 観 察 （ 基 本 姿 勢 と 記 録 方 法 ）
第 4 回	犬 と の 基 礎 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン （ 接 し 方 ・ サ イ ン 理 解 ）
第 5 回	犬 を 用 い た ア ク テ ィ ビ テ ィ 実 践 （ 基 礎 ）
第 6 回	猫 の 行 動 特 性 と ス ト レ ス サ イ ン の 理 解
第 7 回	猫 と の 適 切 な 接 し 方 と 環 境 づ く り
第 8 回	小 動 物 （ ウ サ ギ ・ モ ル モ ッ ト 等 ） と の ふ れ あ い 実 践
第 9 回	動 物 福 祉 （ ア ニ マ ル ウ ェ ル フ ェ ア ） の 基 礎
第 10 回	高 齢 動 物 と の 関 わ り 方 と 配 慮
第 11 回	動 物 を 用 い た リ ラ ク ゼ ー シ ョ ン 活 動 の 理 解
第 12 回	チ ー ム で 行 う ア ク テ ィ ビ テ ィ 企 画 （ 基 礎 ）
第 13 回	ア ク テ ィ ビ テ ィ 実 践 （ グ ル ー プ 活 動 ① ）
第 14 回	ア ク テ ィ ビ テ ィ 実 践 （ グ ル ー プ 活 動 ② ）
第 15 回	前期まとめ（実践振り返り）
第 16 回	後 期 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン
第 17 回	動 物 介 在 活 動 （ AAA ） の 基 礎 理 解
第 18 回	動 物 介 在 教 育 （ AAE ） の 事 例 学 習

2026 年度

第 19 回	動物介在療法（AAT）の基礎理解
第 20 回	施設内アクティビティの企画立案
第 21 回	高齢者施設における動物活動の理解
第 22 回	児童向け動物ふれあい活動の設計
第 23 回	ストレス軽減を目的とした活動プログラム
第 24 回	動物と人の安全管理（リスクマネジメント）
第 25 回	動物の健康管理と活動前チェック
第 26 回	コミュニケーションと接遇（利用者対応）
第 27 回	アクティビティ実践（グループ活動③）
第 28 回	アクティビティ実践（グループ活動④）
第 29 回	年間活動の総合企画発表
第 30 回	総括・次年度に向けた改善検討

授業の方法

講義形式を中心に説明をしていくが、グループワークや実践的な学習も一部取り入れていく。

教材

必要な資料等は授業中に配布していく。

評価の方法

試験 60%、授業への参画 20%、課題提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、動物の行動特性やストレスサイン、基本的な接し方について教科書や資料を用いて予習し、授業内容の理解を深める準備を行う。事後学習としては、授業で実施したアクティビティや観察内容を振り返り、記録・整理することで理解を定着させるとともに、改善点や気づきをまとめ実践力の向上につなげる。

実務経験と授業科目の関係

ペット関連企業の運営経験を有しており、現場で求められる動物との接し方やサービス提供の実践的視点を授業内容に反映している。動物福祉や安全管理、利用者対応など、実務に即したアニマルアクティビティの企画・運営方法を学ぶことで、業界で即戦力となる実践的能力の育成に寄与する。

エキゾチックアニマルⅠ

授業の目的・概要

本授業では、エキゾチックアニマルに関する基礎知識および飼養管理、疾病予防に関する知識を修得することを目的とする。ハムスター、ウサギ、モルモット、フェレットなどの代表的なエキゾチックアニマルについて、生理学的特徴、行動特性、繁殖、適正な飼育方法および主な疾病について体系的に学ぶ。また、種ごとの違いを理解し、それぞれに適した飼育環境や健康管理方法を身に付けることで、動物看護の実践に必要な基礎的判断力を養う。さらに、適正飼養の観点から動物福祉に配慮した対応を理解し、臨床現場や飼い主指導に活用できる知識の定着を図る。

科	エキゾチックアニマルⅠ	教員	吉原
コース	生命科学科(AA、AB)	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

エキゾチックアニマルの概要、ペットや飼育動物の定義を理解し、説明できるようになる。
ハムスターについての生態や特徴、飼育時の注意や病気について理解し、説明できるようになる。

後期

ウサギ、モルモットについての生態や特徴、飼育時の注意や病気について理解し、説明できるようになる。

授業計画

- 1 回 アイスブレイク(エキゾチックアニマルとは)、自己紹介
- 2 回 ハムスターについて(基礎知識)
- 3 回 ハムスターについて(特徴)
- 4 回 ハムスターについて(特徴)
- 5 回 ハムスターについて(生理学的特徴)
- 6 回 ハムスターについて(繁殖)
- 7 回 ハムスターについて(飼育)
- 8 回 ハムスターについて(飼育・病気)
- 9 回 ハムスターについて(病気)
- 10 回 ウサギについて(基礎知識)
- 11 回 ウサギについて(特徴)
- 12 回 ウサギについて(特徴)
- 13 回 ウサギについて(生理学的特徴)

2026 年度

- 14 回 ウサギについて(繁殖)
- 15 回 試験対策
- 16 回 ウサギについて(飼育)
- 17 回 ウサギについて(飼育・病気)
- 18 回 ウサギについて(病気)
- 19 回 モルモットについて(基礎知識)
- 20 回 モルモットについて(特徴)
- 21 回 モルモットについて(特徴)
- 22 回 モルモットについて(生理学的特徴)
- 23 回 モルモットについて(繁殖)
- 24 回 モルモットについて(飼育)
- 25 回 モルモットについて(飼育・病気)
- 26 回 モルモットについて(病気)
- 27 回 フェレット(基礎知識)
- 28 回 フェレット(特徴)
- 29 回 フェレット(特徴)、試験対策
- 30 回 1 年の振り返り

授業の方法

講義

教材

霍野晋吉 横須賀誠『カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編』(緑書房、2012 初版)

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する

授業外での学習方法

事前学習として各回の小動物に関する情報を、書籍・文献等を活用して仕入れておく。

事後学習として各回のポイントをノートにまとめ、復習する。

実務経験と授業科目の関係

-

海洋生態学 I

授業の目的・概要

水族館、アクアリウムショップなどの飼育施設では、自然界の中で水生生物が生息している無機的环境を理解することは重要である。水族館の就職試験における学科（筆記）試験の『専門科目（生物・水産・水質環境管理など）』の中で出題されるので、関心をもって学ぼう

科	生命科学科	教員	佐崎 順
コース	アクアスペシャリスト	教員の実務経験	専門学校教員 33 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

* 海洋生物が生息する地形や海洋の構造などの物理的環境

授業計画

- 1 回 海洋生態系①（海洋の構造：大洋の割合、水深）
- 2 回 海洋生態系②（太平洋と日本海の特徴）
- 3 回 海洋生態系③（大陸棚：一般的な大陸棚と法的大陸棚の違い）
- 4 回 海洋生態系④（海洋生態系とは生物群集と無機的环境との関係）
- 5 回 海洋生態系⑤（無機的环境：塩分とは‰、%について）
- 6 回 海洋生態系⑥（なぜ海水に塩分が含まれているのか①）
- 7 回 海洋生態系⑦（なぜ海水に塩分が含まれているのか②）
- 8 回 海洋生態系⑧（海水の塩分濃度と生命の誕生）
- 9 回 海洋生態系⑨（原核生物と真核生物①）
- 10 回 海洋生態系⑩（原核生物と真核生物②）
- 11 回 海洋生態系⑪（世界の塩分の分布①）
- 12 回 海洋生態系⑫（世界の塩分の分布②）
- 13 回 海洋生態系⑬（塩分‰、%の計算練習 質量%濃度①）
- 14 回 海洋生態系⑭（塩分‰、%の計算練習 質量%濃度、モル濃度②）
- 15 回 海洋生態系⑮（無機的环境：生物の塩分適応①）
- 16 回 前期試験
- 17 回 前期試験採点期間
- 18 回 前期試験の振り返り
- 19 回 海洋生態系⑯（無機的环境：生物の塩分適応②）
- 20 回 海洋生態系⑰（無機的环境：海洋における日射について）
- 21 回 海洋生態系⑱（無機的环境：有光層とそこに生息する生物群集の特徴）
- 22 回 海洋生態系⑲（無機的环境：無光層とは）
- 23 回 海洋生態系⑳（無光層に生息する生物の形態学的・生態学的特徴①）

2026 年度

- 24 回 海洋生態系②（無光層に生息する生物の形態学的・生態学的特徴②）
- 25 回 海洋生態系②（無光層に生息する生物の形態学的・生態学的特徴③）
- 26 回 海洋生態系③（無光層に生息する生物の形態学的・生態学的特徴④）
- 27 回 海洋生態系④（海洋生態系と陸上生態系の温度の違い、比熱）
- 28 回 海洋生態系⑤（水温の鉛直分布①）
- 29 回 海洋生態系⑥（水温の鉛直分布②）
- 30 回 温度と生物①（狭温性と適温回遊）
- 31 回 後期試験
- 32 回 後期試験採点期間
- 33 回 後期試験の振り返り
- 34 回 温度と生物②（適温回遊、奇網とは）
- 35 回 温度と生物③（広温性とは、ベルクマン、アレンの法則）

授業の方法

- * 本講義では、具体的な例を挙げて説明する
- * 理解を深めるために、計算によって無機的环境の実態（例えば塩分濃度）を学ぶ

教材

- * ニューステージ 新生物図表（浜島書店、2026）
- * 授業で使用する教材は、必要に応じて授業内で適宜配布する。

評価の方法

- * 試験 50%、授業への参画 20%、課題への取り組み 30%で総合的に評価する。
- * 前・後期一回ずつ抜き打ちでノートチェックを行う。講義内容だけでなく、事後学習の内容も確認する

授業外での学習方法

- * 事後授業として、授業内で疑問に思ったことを抽出し、自身で調べその結果をノートに書き出そう

実務経験と授業科目の関係

- * 海洋生物（魚類、サンゴなど）の調査・研究の経験あり
- * 環境省 みどりの国勢調査 静岡県 調査責任者（1995 年度）

海洋生物飼育環境管理学

授業の目的・概要

魚介類を中心に、飼育意義や繁殖、成長および飼育環境について事例を取り上げながら解説する。

また、魚介類の行動特性や認知機能、倫理的側面についても講述する。これにより水族館やアクアシ
ョップ、水産業で働くうえで重要な魚介類の科学的な飼育管理を理解することができる。

科	生命科学科	教員	姉崎 拓都
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

水族の生理・生態を理解したうえで飼育管理ができるようになる。

水族の飼育意義を考えた上で、仕事としての飼育管理ができるようになる。

水族の一般的な感覚機能や認知機能について述べるができるようになる。

科学的な知見および倫理観のもと、水族を適切に扱うことができるようになる。

授業計画

- 1 回 自己紹介, アイスブレイク, 講義と評価について,
- 2 回 日本人と水族の関わり
- 3 回 漁業について
- 4 回 飼育の意義 食べる (養殖について)
- 5 回 飼育の意義 食べる (養殖の難点)
- 6 回 飼育の意義 守る (生物多様性について)
- 7 回 飼育の意義 守る (環境汚染と生物への影響)
- 8 回 飼育の意義 守る (種の保存について)
- 9 回 飼育の意義 癒される (癒しのための飼育)
- 10 回 飼育の意義 研究 (研究のための飼育)
- 11 回 海洋生物の感覚機能
- 12 回 魚類の視力
- 13 回 魚類の色覚、偏光
- 14 回 無脊椎動物の視覚
- 15 回 前期期末試験
- 16 回 前期期末試験返却
- 17 回 保護・保全のための飼育 (ブルーガの繁殖、イルカの人口尾びれ)
- 18 回 鑑賞のための飼育 (アニマルセラピーの概要とアクアリウムの効果)

2026 年度

- 19 回 コミュニケーション能力（魚類）
- 20 回 コミュニケーション能力（その他の海洋動物）
- 21 回 養殖について①
- 22 回 養殖について②
- 23 回 養殖について③
- 24 回 魚類の記憶・学習能力
- 25 回 魚類の社会構造（群れ）
- 26 回 魚介類における福祉（動物福祉とは）（海洋生物における福祉の現状）
- 27 回 飼育の現状把握①
- 28 回 飼育の現状について討論
- 29 回 飼育改善実践①
- 30 回 飼育改善実践②
- 31 回 試験対策
- 32 回 後期期末試験
- 33 回 後期期末試験返却
- 34 回 福祉を考慮した飼育方法（環境エンリッチメントを応用した魚類飼育）
- 35 回 ふりかえり、総括

授業の方法

板書を用いた講義、資料など一部はパワーポイントを用いて授業を行う

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

ex:試験 80%、授業への参画、課題への取り組み 20%、で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと

実務経験と授業科目の関係

-

海洋哺乳類学 I

授業の目的・概要

陸棲哺乳類と海棲哺乳類の違いを理解し、海棲哺乳類の分類・特徴・おかれている状況について学ぶとともに、海棲哺乳類の飼育方法を知り、実際の飼育現場に必要な知識を身に着ける。

また哺乳類ではないが、日本で多く飼育されているペンギンについても、特徴や飼育に関する知識を身に着ける。

科	生命科学科	教員	松田 知奈実
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

陸棲哺乳類と海棲哺乳類の違いを説明することができる。

鯨類と海牛類の分類や特徴を説明することができる。

鯨類と海牛類の飼育方法について理解することができる。

後期

鰭脚類・ペンギン類の分類や特徴を説明することができる。

ラッコ・ホッキョクグマの特徴や生活史を説明することができる。

鰭脚類・ラッコ・ホッキョクグマ・ペンギン類の飼育方法について理解することができる。

授業計画

前期 15 回

第 1 回 自己紹介、授業の進め方

第 2 回 海洋哺乳類とは①

第 3 回 海洋哺乳類とは②

第 4 回 鯨類① 進化・分類・体の特徴

第 5 回 鯨類② ハクジラ亜目の特徴

第 6 回 鯨類③ ハクジラ亜目の生態

第 7 回 鯨類④ ヒゲクジラ亜目の特徴

第 8 回 鯨類⑤ ヒゲクジラ亜目の生態

第 9 回 鯨類⑥ 鯨類の社会

2026 年度

第 10 回 鯨類⑦ 鯨類の飼育

第 11 回 海牛類① 進化・分類・体の特徴

第 12 回 海牛類② ジュゴン

第 13 回 海牛類③ マナティー

第 14 回 海牛類④ 海牛類の飼育・保護活動

第 15 回 鰐脚類① 進化・分類・体の特徴

後期 15 回

第 16 回 鰐脚類② アシカ科の特徴

第 17 回 鰐脚類③ アシカの飼育

第 18 回 鰐脚類④ アザラシ科の特徴

第 19 回 鰐脚類⑤ アザラシの飼育

第 20 回 鰐脚類⑥ セイウチ科の特徴

第 21 回 鰐脚類⑦ セイウチの飼育

第 22 回 ラッコ① 進化・体の特徴

第 23 回 ラッコ② 生活史・生態系への影響

第 24 回 ラッコ③ ラッコの飼育

第 25 回 ホッキョクグマ① 進化・体の特徴

第 26 回 ホッキョクグマ② 生活史・社会

第 27 回 ホッキョクグマ③ ホッキョクグマの飼育・絶滅問題

第 28 回 ペンギン類① 進化・分類・体の特徴

第 29 回 ペンギン類② ペンギンの飼育

第 30 回 海棲哺乳類の飼育員

授業の方法

講義

教材

配布プリント

評価の方法

定期試験 80% 平常点 20%

授業外での学習方法

授業内で触れた事柄について、自分なりに調べて理解を深めておく。

実務経験と授業科目の関係

2026 年度

元水族館飼育員(イルカ・アシカ・アザラシ・ペンギンの飼育経験あり)

魚類生理生態学Ⅰ

授業の目的・概要

魚類と総称される生き物について、その分類・生理・生態の基礎を理解し、水族館やアクアショップなどで要される「飼育管理」ならびに「他者への説明」の能力を培う。

科	生命科学科	教員	土田
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

【前期】

- ①魚類の分類体系を説明することができる
- ②魚類の体の構造を説明することができる
- ③魚類の多様性を説明することができる

【後期】

- ①魚類の基礎的な生理機能を説明することができる
- ②魚類の繁殖・発達を説明することができる
- ③飼育管理と対象魚種の生理・形態的特性を関連付けることができる

授業計画

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 魚類とは

第 3 回 分布と回遊

第 4 回 体形と形態測定

第 5 回 体表の構造

第 6 回 筋肉系

第 7 回 骨格

第 8 回 摂食・消化系

第 9 回 鰻

第 10 回 呼吸器

第 11 回 循環系と血液

第 12 回 腎臓と浸透調節

第 13 回 神経系

第 14 回 感覚器

第 15 回 試験範囲説明

第 16 回 前期期末試験

第 17 回 採点期間（自宅課題）

第 18 回 試験返却・試験の振り返り

第 19 回 発音・発電・発光

第 20 回 内分泌系

第 21 回 生殖腺と繁殖様式

第 22 回 仔魚・稚魚

第 23 回 水生環境

第 24 回 飼料と栄養

第 25 回 魚類の免疫学

第 26 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み①

第 27 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み②

第 28 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み③

第 29 回 演習_課題発表①

第 30 回 試験範囲説明

第 31 回 後期期末試験

第 32 回 採点期間（自宅課題）

第 33 回 試験返却・試験の振り返り

第 34 回 演習_課題発表②

第 35 回 年間まとめ

2026 年度

講義・演習

教材

必要な場合配布する。

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・出席率 20%

授業外での学習方法

AQUA TEXT をはじめとした生物飼育施設での飼育管理、日常生活における河川や海の観察を行う。

実務経験と授業科目の関係

魚類寄生虫の基礎研究の経験。

公衆衛生学Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、公衆衛生に関する基礎知識を学び、人と動物が共生する社会において必要となる衛生管理意識と感染症対策能力を身につけることを目的とする。疫学や疾病予防、公衆衛生関連法規、食品衛生、環境衛生などについて体系的に学習し、動物業界に携わる上で必要な知識を習得する。また、人と動物の共通感染症について、ウイルス・細菌・真菌・寄生虫などの特徴や予防法、安全対策を理解し、適切な衛生管理ができる力を養う。さらに、近年の公衆衛生上の課題について理解を深め、社会的責任と倫理観を持って行動できる人材育成を目指す。

科	生命科学科	教員	森 聖
コース	アクアスペシャリスト	教員の実務経験	公衆衛生学講師 3年
対象年次	1年	年間単位数	1単位

目標

人々の健康を維持するための知識・方法・歴史について理解することができる。

健康維持に対する政策・法律を理解する能力を向上することができる。

授業計画

第1週 自己紹介/「ガイダンス」体の各部位の名称、最近の公衆衛生上の話題」

第2週 公衆衛生とは

第3週 疫学と疾病予防-1

第4週 疫学と疾病予防-2

第5週 狂犬病予防法

第6週 社会福祉行政・環境衛生法規

第7週 動物の使用管理と関わり合い-1

第8週 動物の使用管理と関わり合い-2

第9週 感染症法_公衆衛生行政法規

第10週 家畜伝染病予防法_公衆衛生行政法規

2026 年度

第 11 週 家畜伝染病予防法_公衆衛生行政法規

第 12 週 動物の使用管理と公衆衛生-1

第 13 週 動物の使用管理と公衆衛生-2

第 14 週 人と動物の共通感染症とその対策-1 **ウイルス**

第 15 週 人と動物の共通感染症とその対策-2 **細菌**

第 16 週 人と動物の共通感染症とその対策-3 **真菌**

第 17 週 人と動物の共通感染症とその対策-4 **寄生虫**

第 18 週 病原体等に関する**安全対策**

第 19 週 **新興**感染症と**再興**感染症 人畜共通感染症

第 20 週 食品衛生法・食中毒

第 21 週 食品とアレルギー・動物性食品の衛生

第 22 週 食品の保存法・行政・健康危害防止

第 23 週 環境衛生・環境問題

第 24 週 水の衛生

第 25 週 生活環境・廃棄物

第 26 週 衛生動物

第 27 週 **ウイルス**__人と動物の共通感染症とその対策

第 28 週 **細菌**__ 人と動物の共通感染症とその対策

第 29 週 **真菌**__ 人と動物の共通感染症とその対策

第 30 週 最近の公衆衛生に関連する情報の解説。

授業の方法

口述・座学、スライド、参考資料（そのうち、重要事項は学生に音読させる） にて行う。

教材

1 2022 EP.動物看護師教科書 5 巻、②愛玩動物飼養管理士の教本 2 級と 1 級、③放送大学の関連科目__バイオサイエンス、食の安全、など。

評価の方法

宿題回答成績や期末試験 80%、授業への参加意欲 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

2026 年度

授業外での学習方法

なし。

実務経験と授業科目の関係

獣医師・博士（医学）の知識に基づき、授業科目関連の最新情報をインターネット検索・整理し、講義資料を作成する。

動物園学Ⅰ

授業の目的・概要

動物園の歴史、動物園の社会的役割や直面している課題、それに対する取り組みなど外側からでは見えてこない動物園の姿を知るとともに、動物園・水族館の展示手法や動物福祉、飼育員の仕事など動物飼育員として必要な基礎知識を習得する。

科	生命科学科	教員	花木 久実子
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

前期

西洋と日本の動物園の歴史について学習する

現代の動物園の社会的役割及び現状と課題について学習する

動物園や水族館での展示手法や飼育係、獣医師の役割について学習する

後期

動物園の保全生物学、野生復帰について学習する

動物福祉、エンリッチメントについて学習する

授業計画

- 1 回 動物園の役割
- 2 回 動物園の飼育動物
- 3 回 西洋の動物園の歴史
- 4 回 DVD 視聴 世界の動物園（チューリッヒ動物園、ヘンリードーリー動物園等）
- 5 回 日本の動物園の歴史
- 6 回 DVD 視聴 日本の動物園の歴史「そうだ動物園へ行こう」
- 7 回 日本の動物園の歴史（諏訪山動物園）
- 8 回 水族館の歴史
- 9 回 動物園の課題（ゾウの飼育と希少種の繁殖）
- 10 回 飼育施設と展示（動物園）
- 11 回 飼育施設と展示（水族館）
- 12 回 動物園の飼育係 1
- 13 回 動物園の飼育係 2

2026 年度

- 14 回 動物園の獣医師
- 15 回 前期まとめ
- 16 回 DVD 視聴 世界の動物園（シェーンブルン動物園）
- 17 回 動物園の調査研究 1
- 18 回 動物園の調査研究 2
- 19 回 動物園の保全生物学（野生動物の現状）
- 20 回 動物園の保全生物学（野生生物を絶滅から守る取り組み）
- 21 回 動物園の保全生物学（動物園の役割、野生復帰）
- 22 回 動物講話（ジャイアントパンダ）
- 23 回 DVD 視聴「パンダ山へ帰る」
- 24 回 動物福祉/アニマルウェルフェア
- 25 回 動物園の動物福祉
- 26 回 動物園のエンリッチメント
- 27 回 個体識別と情報管理
- 28 回 動物園てなんだろう
- 29 回 震災と動物園
- 30 回 後期まとめ

授業の方法

テキスト、パワーポイントを使用した講義及び DVD の視聴

教材

授業時に配布する資料、DVD

評価の方法

期末試験 60%、レポート 20%、授業態度 20%

授業外での学習方法

身近な動物園や水族館へ行き、授業で学んだ内容を現場で確認する。授業の疑問点、興味を持った点について自分で調べてノートに記録しておく。

実務経験と授業科目の関係

動物園獣医師及び飼育展示係長としての現場での経験、副園長としての組織マネジメント経験及び日本動物園水族館協会でのゾウ専門委員、教育普及部門委員としての経験を踏まえ、飼育展示と管理運営に役立つ実践的な知識と技術を講義する。

動物学習心理学

授業の目的・概要

トレーナーにはレベルがある。施設によって様々な呼び方をし、レベルの数も違うが、少なくともジュニア、シニア、サブヘッド、ヘッドの4つのレベルがある、この授業では最初の段階であるジュニア・トレーナーとしての実務が出来るよう知識を身につける。

前期では条件刺激、ブリッジ、主要強化子、二次性強化子について学び。後期では基本的トレーニングについて学び、さらにトラブル・シューティングの為に LRS、タイムアウトについて学ぶ。又、予防としての脱感作の重要性を認識する。

科	生命科学科	教員	山本 聡
コース	アクアスペシャリスト・コース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年生	年間単位時間	1 単位

目標

前期

アタッチメントを説明できる。水族館・動物園の機能について自分の考えを持ち、それを人に話すことができる。

古典的条件付け、オペラント条件付け、ブリッジについてその概要を説明できる。

ABC 分析を行える。

後期

動物はヒトの鏡であることを認識する。LRS とタイムアウトを適切に行える。脱感作の基本的な考え方を理解することができる。

ターゲットの使い方の多様性を知り、実行できる。

授業計画

[前期授業]

1 回 対面：トレーニングとは何か、動物との絆とは何か。

2 回 オンデ：トレーナーにはレベルがある。水族館や動物園の役割。

3 回 対面：動物飼育の知識・技術・経験を野生動物の保全に活かす。

2026 年度

- 4 回 オンデ：動物福祉と動物の自主性。
- 5 回 オンデ：連合学習と随伴性。
- 6 回 対面：無条件刺激と無条件反応、条件刺激とブリッジ
- 7 回 オンデ：高次条件刺激、実験と実際。
- 8 回 対面：強化、オペラントの正と負。
- 9 回 オンデ：動物はトレーナーの鏡、罰を多用することのデメリット。
- 10 回 オンデ：予測性と非予測性、動機水準。
- 11 回 対面：ABC 分析(答えを見つけるのではなく、原因を考える)。
- 12 回 オンデ：古典的条件づけ、オペラント条件付け、期待の関係。
- 13 回目 対面：サインの選択と動機水準。
- 14 回目 オンデ：ジュニア・トレーナーの安全管理。
- 15 回目 対面：前期のまとめ。
- 16 回目 対面：基本トレーニング I 対面：コールと隔離
- 17 回目 オンデ：基本トレーニング II ターゲットタッチとターゲットフォロー。
- 18 回目 対面：主要強化子と二次性強化子。欲求と報酬。
- 19 回目 オンデ：学習の定義と行動の変容。20 回目 (11/5) 対面：連続強化とジャックポット。
- 21 回目 オンデ：不定率強化と V.R.R.V.
- 22 回目 対面：V.R.R.V.に対する疑問とジャックポットの応用。
- 23 回目 オンデ：消去と自然回復。
- 24 回目 対面：ハズバンドリーの考え方。
- 25 回目 オンデ：3 種類の脱感作。
- 26 回目 対面：不快と快。
- 27 回目 オンデ：PC トレーニングと FC トレーニング。
- 28 回目 対面：後期のまとめ。
- 29 回目 対面：総まとめ (1)。
- 30 回目 対面：総まとめ (2)。

授業の方法

講義中心だが学生に質問する時間、学生同士ディスカッションする時間を随時設ける。

教材

2026 年度

必要に応じて事前に学生に周知

評価の方法

試験結果 80 %、授業への参画 20%で総合的に判断する。

授業外での学習方法

授業のコピーではなく、自分の考え、疑問に対する答えをまとめたオリジナルのノートを作る。

実務経験と授業科目の関係

ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所、生物学研究所で海洋哺乳類のトレーニング・ケアとそれらに必要な学問を学ぶ（比較認知学、行動生態学、実験計画・研究法など）。

帰国後は沖縄海洋研究所や淡島マリナパークなどで動物のトレーニング・ケアにかかわりながら飼育担当者の養成、アドバイスを行う。

両生爬虫類学Ⅰ

授業の目的・概要

両生類および爬虫類の行動や生活史を中心とした生態などについての基礎的な知識を学び、各分類群の生物学的特徴や環境への適応を理解する。あわせて、種ごとの特性に基づいた取り扱いや飼育・管理に関する知識を身につけ、動物関連分野への就職に必要な基礎的能力を養う。

科	生命科学科	教員	阿南 咲
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

両生類の分類・生活史・行動生態について具体的に理解し説明できる。

得られた知識から両生類にとって適切な調査方法や飼育方法を選択し、それについて説明できる。

後期

爬虫類の分類・生活史・行動生態について具体的に理解し説明できる。

得られた知識から爬虫類にとって適切な調査方法や飼育方法を選択し、それについて説明できる。

授業計画

- 1 回 オリエンテーションー本講義について
- 2 回 両生類について
- 3 回 両生類の分類
- 4 回 両生類の生活史①
- 5 回 両生類の生活史②
- 6 回 両生類の行動生態①
- 7 回 両生類の行動生態②
- 8 回 両生類の調査方法
- 9 回 両生類の保全について

2026 年度

- 10 回 両生類の飼育環境
- 11 回 両生類の飼育方法
- 12 回 日本の両生類相
- 13 回 世界の両生類相
- 14 回 試験対策①
- 15 回 試験対策②
- 16 回 爬虫類について
- 17 回 爬虫類の分類①
- 18 回 爬虫類の分類②
- 19 回 爬虫類の生活史①
- 20 回 爬虫類の生活史②
- 21 回 爬虫類の行動生態①
- 22 回 爬虫類の行動生態②
- 23 回 爬虫類の調査方法
- 24 回 爬虫類の保全について
- 25 回 試験対策①
- 26 回 試験対策②
- 27 回 爬虫類の飼育環境
- 28 回 爬虫類の飼育方法
- 29 回 日本の爬虫類相
- 30 回 世界の爬虫類相

授業の方法

パワーポイントによる講義

教材

必要に応じて参考資料を配布する

評価の方法

2026 年度

期末試験 80%、授業態度・出席率 20%

授業外での学習方法

授業後に学習した内容を自身で復習し、ポイントとなる部分や疑問に思った点についてより詳細に調べ、ノートにまとめる

実務経験と授業科目の関係

-

博物館学

授業の目的・概要

本授業は、水族館への就職を目指す学生を対象に、水族館を中心とした博物館の基本的な役割や機能を理解することを目的とする。水族館は単なる娯楽施設ではなく、生物を収集・飼育し、研究し、その魅力や知識を来館者に伝える博物館の一種である。本授業では専門的な資格取得を目的とせず、水族館の仕事や展示の工夫、教育活動などを身近な事例や体験的な学習を通して学ぶ。さらに、展示づくりや発表活動を取り入れ、来館者に分かりやすく伝える力や主体的に考える力を養うことで、将来の現場で求められる視点や実践力の基礎を身につけることを目指す。

科	生命科学科	教員	濱崎 裕也
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年生	年間単位数	1 単位

目標

- ・水族館が博物館の一種であることを理解し、その役割（収集・飼育・研究・展示・教育）を説明することができる。
- ・水族館で働く職種や業務内容について理解し、それぞれの役割の違いを説明することができる。
- ・生き物の特徴や魅力が伝わる展示や解説の工夫について考え、具体的なアイデアを提案することができる。
- ・水族館の仕事に関わる実践的な課題に取り組み、他者と協力しながら発表することができる。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション（水族館と博物館の関係）
- 第 2 回 行ったことのある水族館を共有しよう
- 第 3 回 水族館はなぜ博物館なのか？
- 第 4 回 身近な水族館を知る（施設紹介）
- 第 5 回 先生の研究紹介（クラゲと水族館）
- 第 6 回 博物館の種類と水族館の位置づけ
- 第 7 回 水族館の役割①（生物の収集・飼育・保存）

2026 年度

- 第 8 回 水族館の役割②（研究・教育・展示）
- 第 9 回 水族館で働く人たち（飼育員・解説員など）
- 第 10 回 水族館のバックヤードを知る
- 第 11 回 飼育員の仕事（1 日の流れ）
- 第 12 回 水槽管理の基本（水質・環境）
- 第 13 回 生き物の見せ方（展示デザイン）
- 第 14 回 人気水族館の展示を分析
- 第 15 回 クラゲ展示の工夫を考える
- 第 16 回 水族館展示づくり①（テーマ決め）
- 第 17 回 水族館展示づくり②（ストーリー構成）
- 第 18 回 水族館展示づくり③（ポスター制作）
- 第 19 回 水族館展示づくり④（発表準備）
- 第 20 回 水族館ミニ展示発表会
- 第 21 回 来館者対応（接客・案内）
- 第 22 回 子ども向け解説の工夫
- 第 23 回 ショー・イベントの企画
- 第 24 回 SNS と水族館（魅力の発信）
- 第 25 回 安全管理とトラブル対応
- 第 26 回 理想の水族館を考える①（コンセプト）
- 第 27 回 理想の水族館を考える②（具体化）
- 第 28 回 発表準備
- 第 29 回 最終発表（理想の水族館）
- 第 30 回 ふり返り（水族館で働く自分を考える）

授業の方法

講義形式

教材

特に指定はないが、必要な資料を授業中に適宜配布する。

評価の方法

2026 年度

試験 60%、授業への参画 20%、課題 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業の予習をノートにまとめておくことを事前学習とし、授業の内容をノートにまとめ、以後の博物館(含水族館)巡りをする際の注目ポイントをノートに記しておくことを事後学習とする。

実務経験と授業科目の関係

-

アナウンス演習Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、動物業界に必要なコミュニケーション能力や表現力、企画力を実践的に学ぶことを目的とする。自己紹介やスピーチ発表を通して、人前で分かりやすく伝える力を養うとともに、本紹介や生き物解説板制作、地下水族館ツアーなどを通して、情報を整理し発信する技術を身につける。また、グループ企画やイベント準備では、協調性や主体性、企画運営力を高める。動物施設における接客や解説業務を意識しながら、来館者に魅力を伝えられる実践的なスキルを習得し、将来現場で活躍できる人材育成を目指す。

科	生命科学科	教員	荒田あかね、多田光里
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	イルカショートレーナー3年半
対象年次	1年	年間単位数	2単位

目標

イベントやショーを想定したアナウンスや解説において、内容を整理し、聞き手に配慮しながら分かりやすく自信をもって伝えることができるようになる。

授業計画

- 第1週 自己紹介、アイスブレイク
- 第2週 自己紹介、印象に残る為には、人前での話し方について
- 第3週 「私の夢について」準備
- 第4週 「私の夢について」発表
- 第5週 「本紹介」準備（1）—読む
- 第6週 「本紹介」準備（2）—原稿作成/発表
- 第7週 「本紹介」発表
- 第8週 「生き物解説板」準備
- 第9週 「生き物解説板」評価会
- 第10週 「好きな動物施設」準備（1）—パワポ作成

2026 年度

- 第 11 週 「好きな動物施設」準備（２）－パワポ作成続き/原稿作成
- 第 12 週 「好きな動物施設」発表（１）－約 20 人
- 第 13 週 「好きな動物施設」発表（２）－約 20 人
- 第 14 週 「地下水族館の生き物解説」準備
- 第 15 週 「地下水族館の生き物解説」発表（３人１組）/反省会
- 第 16 週 夏休みに行った場所紹介－原稿・資料準備
- 第 17 週 夏休みに行った場所紹介（１）－約 20 人
- 第 18 週 夏休みに行った場所紹介（２）－約 20 人
- 第 19 週 「グループ企画」準備（１）－班分け・企画案出し
- 第 20 週 「グループ企画」準備（２）－企画書提出
- 第 21 週 「グループ企画」準備（３）－準備
- 第 22 週 「グループ企画」発表（３グループ）
- 第 23 週 「グループ企画」発表（３グループ）
- 第 24 週 「グループ企画」発表（３グループ）
- 第 25 週 地下水族館ツアー準備（１）－企画書作成
- 第 26 週 地下水族館ツアー準備（２）－原稿作成・リハ
- 第 27 週 地下水族館ツアー（３組）
- 第 28 週 地下水族館ツアー（４組）
- 第 29 週 イベント準備
- 第 30 週 イベント装飾

授業の方法

実践

教材

なし

評価の方法

成果発表 80%、授業への参加意欲 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

発表テーマを考え、まとめる。

実務経験と授業科目の関係

元ショートトレーナーの経験を活かし、見本を行い指導する。

フィールドワーク概論 I

授業の目的・概要

本授業では、フィールドワークの基礎知識と実践的手法を学び、自然環境や地域社会を安全かつ的確に調査・観察する力を身につけることを目的とする。自然観察実習を通して観察力を養うとともに、カメラやレコーダー、野帳などを用いた記録技術を習得する。また、地図の読み方や GIS、気象知識、リスクアセスメントなどを学び、現地調査に必要な安全管理能力を高める。さらに、文献調査やインタビュー、データ整理、計画書作成を通して、情報収集力や分析力、論理的思考力を養い、主体的に調査活動へ取り組める人材育成を目指す。

科	生命科学科	教員	前畑
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

フィールドワークの基本概念や必要とされる知識・技能について説明をすることができる。また、フィールドワークを安全かつ適切な方法で遂行し、かつ仮説を検証するための科学的データを十分に得られるような具体的計画を立てることができる。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 FW とは何か？
- 第 3 回 リスクアセスメント
- 第 4 回 安全管理（1）春のリスク
- 第 5 回 FW 実習（1）春の自然観察
- 第 6 回 記録法（1）カメラ・レコーダの使い方
- 第 7 回 記録法（2）スケッチの描き方
- 第 8 回 記録法（3）野帳の使い方
- 第 9 回 地理（1）地図記号・等高線・地形断面図
- 第 10 回 地理（2）山座同定・現在地特定・地図投影法

2026 年度

- 第 11 回 地理 (3) GIS
- 第 12 回 安全管理 (2) 夏のリスク
- 第 13 回 気象 (1) 気象通報・天気図作成
- 第 14 回 気象 (2) 気象通報・天気図作成
- 第 15 回 気象 (3) 天候予測
- 第 16 回 前期期末試験
- 第 17 回 採点期間
- 第 18 回 試験返却
- 第 19 回 文献調査法 (1) 文献探索
- 第 20 回 文献調査法 (2) 文献引用
- 第 21 回 安全管理 (3) (秋のリスク)
- 第 22 回 人文・社会 (1) インタビュー・アンケート
- 第 23 回 人文・社会 (2) フィールドリテラシー
- 第 24 回 思考・発想法 (1)
- 第 25 回 思考・発想法 (2)
- 第 26 回 FW 実習 (2) 秋の自然観察
- 第 27 回 データのまとめ方
- 第 28 回 安全管理 (4) (冬のリスク)
- 第 29 回 FW 計画書作成 (1)
- 第 30 回 FW 計画書作成 (2)
- 第 31 回 後期期末試験
- 第 32 回 採点期間
- 第 33 回 試験返却
- 第 34 回 FW 実習 (3)
- 第 35 回 まとめ

授業の方法

座学、演習、野外活動

教材

必要に応じて別途資料を配布する。

評価の方法

平常点 40%（出席率、授業態度等）、試験 30%、課題への取り組み 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事後学習として授業内で学んだことを復習し、普段の生活の中で実践してみることを。

実務経験と授業科目の関係

大学および研究機関において、生態学分野の研究に従事し、野外調査の実務経験を有する。本科目においては、その活動で培った知見を活かし、フィールドでの安全確保や調査手法などについての理解を促す。